

# La Movado

Fondita en 1951 N-ro 800 oktobro 2017

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ  
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ōsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO  
Tohurō minami 2-8-7, Dazaihu-si, Hukuoka-ken, 818-0105

ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU  
Kannonmen 14-1, Kusiki, Kitanada-tyō, Naruto-si, Toku-  
sima-ken, 771-0371, KITANI Tomoko

## ENHAVO

世界エスペラント大会、ソウルで開かれる.....田熊 健二 1-2  
 楽しい作文教室(74).....塚本 猛 3  
 Kajero Libervola: Tri principoj de la Japana Konstitucio  
 (2).....KITAGAWA Syozi 4  
 関西連盟旅行団、大会参加と扶余観光.....磯貝 尚武 5  
 初心者のための語尾なし単語の使い方(58).相川 節子 5,9  
 対訳:源氏物語第15帖 蓬生.....紫式部 / belmonto 6-7  
 Jam krepusko kun Esperanto(1).....EGAWA Harukuni 8-9  
 800号記念祝賀メッセージ.....10-11  
 峰芳隆さん追悼.....11-15  
 La Movado の印刷時からの交流... 碓大福 / Brila  
 disĉiplo de MIYAMOTO Masao...Ulrich LINS / 九州から  
 やりとり... 荻野 明 / 峰さんの仕事ぶり... ドイ ヒロ  
 カズ / Z祭に来てくれて賢治の話を... 北川 昭二 / 『動  
 植物名リスト(仮称)』の完成誓う... 野村 忠綱 / 峰  
 さんから学ぶべきこと... 寺島 俊穂 / 横浜 UK でのこ  
 と... 清水 孝一  
 作文教室成績.....14 / Kurantaj vortoj / Mikspoto..... 15  
 Salono: 竹崎睦子基金の活用募集、京都ラジオカフェ 16  
 La Movado / 作文教室課題 / KLEG 事務局だより..... 17  
 Vortkruca enigmo.....18-19 / 編集ノート..... 20

Turismo kaj evoluo: Vojoj al daŭripovo をテーマに

## 世界エスペラント大会、ソウルで開かれる

田熊 健二 (奈良県)

第102回世界エスペラント大会(UK102)は、7月22日から29日の8日間、韓国のソウルで開催された。1994年(第79回)以来2回目の開催である。参加者は61か国から1173人。日本からの参加者は194人で主催国韓国に続き第2位であった。第3位は中国、さらにフランス、ドイツが続いた。関西エスペラント連盟(KLEG)は、旅行団を組織し、19人が参加した(p.5に関連記事)。

会場は韓国外国語大学校(韓国では、大学校が大学に、大学が学部にあたる。エスペラントでは Hankuk Universitato de Fremdaj Studoj、略称 HUFs)ソウルキャンパスであった。ソウル特別市の北東部に位置し、地下鉄1号線の「外大前」(ウエデアップ)駅からまっすぐ約300mで正門に



至る。私たちのホテルは、ソウル中心街の仁寺洞(インサドン)にあり、鐘路3街(チョンノサムガ)駅から通った。

### 受付

22日関空を発ち、金浦空港に着くと専用バスでホテルに寄り、荷物を置いて、会場に向かった。受付はすいていて、手続きもスムーズに済み、布製の手提げ袋をもらった。袋には、UKの文字やシン

ボルマークが印刷されており、反対面には、会場の大学のマークや文字が印刷されていた。この大学の学生も、UKの印刷の無い同じ袋を持っていたので、大学からの寄付ではないかと思う。袋の中に Kongresa libro、名札、地図などととも他のUKでは見かけないハンカチ、ボールペン、き

れいな布の袋にはいった観光案内や絵葉書、大会の記念バッジ、T-money という名の交通カード 5000 ウォン分（地下鉄に 4 回乗れる）が入っていた。ソウル市の援助があったように聞いた。

## Movada Foiro

19 時から校内の広場で Movada Foiro が始まった。多くの団体が出展し、行き交う大勢の人に自分たちの活動の説明をしていた。JEI もブースを出して宣伝していて、木元靖浩さんは来年奈良で開催される日韓共同開催大会のチラシを配って参加を呼びかけていた。旧交を温めている人も多かった。野外で暑くて、私は最後までおらずに引きあげた。

## 開会式

翌 23 日は開会式。la salono Zamenhof と名づけられたホールで行われた。いつも全員が集まれるホールにザメンホフの名が冠されるが、大学での名称は、オバマホール。2012 年にオバマ米大統領が、現職の米大統領として韓国で初めて講演を行ったことを記念して命名されたそうだ。

正面壇上に UEA の役員、LKK の役員が着席していて、Mark Fettes 会長が、役員を紹介していった。次に来賓を紹介した。ソウル特別市市長 Park Won-soon、韓国国会の副議長 Park Joo-sun、HUFS 学長 Kim In-chul など。これらの方は通訳付きであいさつした。ソウル市長の第一声は、Saluton! であった。UEA 会長の大会演説があり、大会テーマ Turismo kaj evoluo: Vojoj al daŭripovo についての説明もあった。恒例の各国代表のあいさつで、日本は木元さんが壇上に立った。



## Nacia Vespero

その日の夜 8 時から 10 時まで同じオバマホールで Nacia Vespero が行われた。La simfonia orkestro Arirang が舞台下で演奏し、舞台上では韓国の伝統芸能が次々と披露されていった。20 ~ 30 人の小学生によるテコンドの実演は迫力があり、拍手が沸

いた。歌手はアリランを歌い、グループ舞踊があり、伝統楽器とオーケストラの共演もあり、それをオーケストラの指揮者がうまくまとめて見ごたえのある演奏・舞台であった。オーケストラのアリランも素晴らしかった。

## Internacia Arta Vespero

最後の晩（28 日）に各国ののど自慢・芸達者の発表の場、Internacia Arta Vespero が行われたが、今年はオーディションがなかったのだろうか、同じような演目があり、同じグループが 2 回出るなどしていたように思う。出来栄えもいま一つというグループもあった。

## Bankedo

Bankedo は 24 日の夜、会場からは離れたところにある世宗大王記念館で行われた。私は一旦ホテルに帰り、冷蔵庫で冷やしていた奈良の吟醸酒を持って会場に行った。Bankedo にアルコールを持ち込んでもいいことになっていたのだから、日本から持ってきたのだが、こんなことをしたのは私と木元さんぐらいであった。乾杯は韓国らしくマッコリで行われたが、どういうわけか、私はマッコリを飲むと、腹の調子がおかしくなるので、乾杯でほんの少ししか飲まなかった。吟醸酒は 720ml だったので、同じテーブルの人だけしかあげられなかった。料理も十分にあり、歓談しながらいい気分にならせた。

## 多彩なプログラム

月曜には Kleriga Lundo という名の教養番組が 3 つの時間帯に同時に 5 講座、合計 15 講座行われた。大会大学、各種講演などがあり、韓国語速習、韓国の歴史、韓国文化教室など、韓国についての知識を深める講座が複数回行われた。コンサート、映画、演劇、ダンスなど芸術番組も多くあった。そんな中で一つ特異な番組があった。Pontkunveno en la Parlamento という番組で、韓国の国会で、南北朝鮮の統一について討論するというものである。これを聞きに行くつもりであったが、あらかじめ、参加登録しておく必要があったそうで、登録していなかったため、参加できず残念であった。

## Ekskurso

申し込みが遅かったので、半日遠足、全日遠足とも満員で、取れたのはソウルタワーからソウルの夜景を楽しむ半日遠足だった。全日遠足で、板門店に行けなかったのだから、あふれ組の 3 人 [→p.11へ]



①昨日彼は、明日行くと言った。

【訳例1】Hieraŭ li diris, “Mi venos morgaŭ.”

(〔綴り修正〕Drako)

【訳例2】Hieraŭ li diris, ke li venos hodiaŭ.

(T.Ku)

【訳例3】Hieraŭ li diris, ke li iros la sekvantan tagon. (CA)

この課題では、「明日」とはどの日なのかと、何処に行くかが問題になります。引用符を使っていないのですが、「明日行く」という言葉を昨日彼が発したと考えるのが、日本語の解釈として素直だと思います。もし「今日来ると言った」であれば、「彼」が私のところに今日来る、あるいは、「誰かが彼のところに今日来る」の意味でしょう。

「彼」が発言したのは「昨日」ですから、「昨日の時点での明日」は「今日」になります。行先は分かりませんが、その発言を聞いている人のところに行くというのは十分あり得ます。そのように考えれば、ke を使った間接話法では「今日」hodiaŭ を使うでしょう。veni (来る) は日本語と異なり、視点の置かれた場所に移動することなので、直接話法でも「行く」iri ではなく「来る」veni を使います。

エスペラントの間接話法での時制は直接話法と同じですが、hodiaŭ を基準に考える hieraŭ, morgaŭ などは変更が必要です。置きかえ例には antaŭan tagon や postan tagon などが考えられます。訳例3は la sekvantan tagon と表現していますが、何時の「翌日」なのか、少し変な感じがします。

②私は食事中テレビを見ていた。

【訳例1】Mi televidis dum manĝado. (ヒー坊, ikona, M.H.)

【訳例2】Mi televidis, dum mi manĝis. ([mi 追加] alfa)

【訳例3】Mi televidis manĝante. (nori)

dum (～の間) は前置詞、従属接続詞のどちらにも使えます。前置詞なら dum manĝado と言えます。従属接続詞の場合、従属文にも主語が必要なので「私が食事をしている間」と考えます。それは過去のことなので dum mi manĝis になります。

televidi (テレビを見る) は、単独でそのまま使えます。spekti (見物する) を使えば、mi spektis televidon とも言えるでしょう。

③たくさんの人達が将棋を指している。

【訳例1】Multaj homoj ludas japanan ŝakon. (T.Ku, Ĉielo, ヒー坊, Ivajo, Eiko)

【訳例2】Multe da personoj ludas japanan ŝakon. (CA, M.H.)

【訳例3】Multaj homoj amuziĝas per japana ŝako. ([前置詞に修正] Orion)

「たくさん」に複数形を使うか、multe da を使うかは状況次第です。テレビで、たくさんの人達が並んで将棋を指しているところを見たら、multe da を使いたくなるかも知れませんね。

「将棋を指す」は ludi japanan ŝakon と言えます。ŝogio もありますが、国際的な普及度合いは疑問です。有名な辞書 PIV や、インターネット上の Reta Vortaro には見当たりません。囲碁 (goo) に関しては、PIV には goo だけですが、Reta Vortaro には vejĉio(goo) と動詞の vejĉii が出ています。

訳例3は自動詞の amuziĝi (おもしろがる) を使っていて、将棋を指すのは気晴らしのようです。楽しく将棋をしているのなら ĝui ion (何かを楽しむ) を使うことも考えられます。

④彼らはコンピューターに勝てない。

【訳例1】Ili ne povas venki komputilon en la ludo. (T.Ku)

【訳例2】Ili ne povas venki komputilon. (Ĉielo, ikona, Ivajo, alfa, M.H.)

【訳例3】Ili ne povas akiri la venkon kontraŭ komputilo. (Orion)

「コンピューター」には komputilo (2007年に komput/i 追加公認) が使えます。venki (勝つ) ですが、対象を対格で示すことに注意しましょう。訳例3のように名詞の venko を使う事もできます。

姫路城で開催されたパソコン限定の「将棋電王戦」で、有名な将棋ソフト Ponanza がプロ棋士の佐藤叡王に勝ちました。しかし、使用するコンピューターに制限の無い「世界コンピュータ将棋選手権」では、1092 cpu を使用した Ponanza が、予想外に新人のパソコンソフト elmo に負けました。コンピューター将棋 komputila ŝogio(?) の進化は速く、これからが楽しみです。成績は p.14、新しい課題は p.17

## Tri principoj de la Japana Konstitucio (2)

KITAGAWA Syozi

日本国憲法の第3番目の原理(特色)である「基本的人権の尊重」について、明治憲法におけるそれとの似て非なる違いについて述べる。

En la lasta artikolo mi skribis pri la du el tri principoj de la Japana Konstitucio. Ĉi-foje mi volas mencii pri la tria: respekto al la fundamentaj homaj rajtoj.

Antaŭ la nuna konstitucio nia lando havis tiel nomatan *Meizi*-Konstitucion, la "Grandjapana Imperia Konstitucio"-n. Kompreneble ankaŭ en la Konstitucio estis skribitaj kelke da fundamentaj homaj rajtoj. Sed ĉu vi scias kiuj estas tiuj? Unue mi demandas aŭskultantojn, "Kiuj estis garantiitaj en la *Meizi*-Konstitucio inter la subaj rajtoj, kiuj estas skribitaj en la nuna Konstitucio?" (la ordo ne havas ian signifon)

(1) la rajto ricevi edukadon (2) la libereco de parolado kaj eldonado (3) la libereco el malliberigo de korpoj (4) la rajto de peticio (5) la libereco elekti kaj ŝanĝi sian loĝlokon (6) la rajto vivi sane kaj kulture (7) la rajto je posedaĵo (8) la libereco de religia kredo (9) la garantio de sekreto de komunikado (10) la rajto ricevi juĝon (11) la rajto de laboristoj (12) la libereco de kunvenado kaj asociiĝo

La respondoj de la aŭskultantoj estas diversaj kaj konfuzitaj tiel, kiel la artikolo, kiun iuj elektis kiel "jes", neis aliaj. Ŝajnis al mi, ke la respondo estas malfacila pro tio, ke vekis miskomprenon la lernado de la historio de la epoko *Meizi*, *Taisyō*, *Syowa* (antaŭa duono).

La ĝustaj respondoj estas jene: en la *Meizi*-Konstitucio estis jam skribitaj (2) (3) (4) (7) (8) (9) (10) (12), dum nur tri, nome (1) (6) (11) ankoraŭ ne aperis. Eksciinte la respondojn preskaŭ ĉiuj surpriziĝas, ke la Konstitucio vaste aprobis la liberecojn kaj rajtojn. Sed, ĉi

tie mi devas akcenti du gravajn punktojn, kiuj estas unue kialo kaŭzita tian miskomprenon, due epokfaraj punktoj en la nuna Japana Konstitucio.

Kial la miskompreno okazis?

Jam menciitaj liberecoj kaj rajtoj de (2) (3) (4) (7) (8) (9) (10) (12) estas nomataj "la liberecaj fundamentaj rajtoj", kaj ili jam estis tiel vaste rekonitaj en la mondo de la 19a jarcento, ke oni povis skribi ilin en *Meizi*-Konstitucion. Malgraŭ tio, ni ne povas preterpasi, ke ili estis nomataj kiel "la rajtoj de regatoj".

Kaj, menciinde estas, ke la diritaj ok "la liberecaj fundamentaj rajtoj" havas alie limigojn kiel "en la sfero de leĝoj" k.t.p. Tiuj limigoj poste naskis terurajn leĝojn kiel *La leĝo por Publika Ordo* en 1925, kaj en la aktualaj regadoj aperis la situacio, en kiu nenie troviĝas ekzemple "la libereco de parolo kaj eldono", "la libereco el malliberigo de korpoj".

Cetere, la lastaj tri rajtoj de (1) (6) (11) nomataj "la vivecaj (socialaj) fundamentaj rajtoj" ankoraŭ ne konceptitaj tiam, kiam naskiĝis la *Meizi*-Konstitucio.

Dume, rimarkinde estas, ke en la nuna Japana Konstitucio oni forigis ĉiujn limigojn de "la liberecaj fundamentaj rajtoj" en respektivaj artikoloj escepte de unu artikolo skribita kiel "kondiĉe ke ĝi ne kontraŭas la publikan bonfarton". Plue oni aldonis ne nur novajn artikolojn de "la vivecaj (socialaj) fundamentaj rajtoj", sed ankaŭ eĉ en "la liberecaj" kiel "la libereco de penso kaj konscienco", "la akademia libereco", kaj "la rajto je serĉado de feliĉo".

Fine, parolante pri la tri principoj de la Japana Konstitucio mi denove pensis, ke ĝi estas nia vere karega trezoro, kiu garantias nian nunan kaj estontan vivon. Mi esperas, ke ĝi estos respektata de ni popolo por ĉiam.

(fino)

(rim.) Ĉi-foje mi referencis la tekston tradukitan de NUN-vortoj.

## 関西連盟旅行団、大会参加と扶余観光

磯貝尚武 (KLEG 国際部)

KLEG の UK 旅行団は 7 月 31 日無事に帰国致しました。10 日間の日程で 7 月 22 日に関西空港を出発した我々はソウルでの 1 週間の大会と百済の古都扶余 (フヨ) と港町釜山の観光を何の事故もなく無事に消化して、帰国したことを報告致します。

去年の夏過ぎ頃から国際部が取り組んできたこの計画でしたが、当初は、国際情勢の悪化で反応が鈍く最少催行人員数の確保が出来ないのではと心配していました。最終的には 19 名の参加をいただき、何とか催行する事が出来ました。皆様のご協力ありがとうございました。主催者側からは、まずは成功したのではと思います。

団員の皆さまは健康的に、活発に行動され、各人の目的を果たされたものと思っています。もちろん、自国を離れて知らない国への旅行は不安なものです。皆さんは好奇心に満ち、十分に環境に対応され、それぞれの目的を達成されたことでしょう。

大会終了後、旅行団は扶余と釜山を訪問しました。扶余は三国時代の百済の都があった所で、最近、観光地として整備され、特に関西の皆さんとは歴史的關係のある所です。また釜山は古来より海の玄関、何かにつけ日本とのかかわりがあった所です。

来年は JEI 主催の日韓共同開催大会が奈良で開かれるそうです。おおげい、韓国の皆さんが奈良に来られます。そのお世話をする為の準備の一環となったのではないのでしょうか。あつと言う間の 10 日間でした。皆さまのご協力を KLEG 国際部として感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



扶余の天声殿前で

初心者のための

語尾なし単語の使い方 (58)

相川 節子

### 接続詞 (10) kvankam

「～だけれども」「～にもかかわらず」という意味の接続詞です。自分で使いこなせなくても差し支えない単語です。

*Kvankam mi lernis la anglan dum ses jaroj, mi ne povas skribi eĉ simplan leteron en ĝi.*

(英語を 6 年間習ったけれど、短い手紙さえ書けない)

この文は、ちょっと構文を変えて *Mi lernis la anglan dum ses jaroj, sed mi ne povas...* とすれば、同じ意味を表現することができます。別に *kvankam* を使わなくても、言いたいことは言える。自分で使いこなせなくても差し支えない、と書いたのはそういう意味です。

*Ŝi kuraĝe partoprenis en la Universala Kongreso, kvankam ŝi estas komencanto.*

(彼女は初心者だけれど、勇気を出して世界大会に参加した)

*Kvankam juna, li bone flegas maljunulon.*

(彼は若いのが、老人の介護を上手にやっている)

接続詞ですから、基本的には文と文をつなぎます。上記の例文は、*kvankam li estas juna* の *li estas* が省略されていると考えていいでしょう。

### 接続詞 (11) kvazaŭ

この単語も、実際の会話の中で使うことはめったにないと、個人的な経験からは言えます。ただ、手紙やブログなど、文書の中では使い道があるでしょう。ま、*ke* や *ĝis* と違って、「初心者にも必須」というほどの単語ではなさそうです。

*Mi multe ŝvitis, kvazaŭ mi naĝus.*

(まるで泳いだかのように、びっしょり汗をかいた)

ほんとうに泳いだわけではないので、*naĝus* と条件法を使うのが本来です。ただし、現実感を表現するために直説法 (*-as, -is, -os*) を使うこともよくあります。

*En la balo Cindrulino sentis, kvazaŭ ŝi estas en songo.*

(舞踏会でシンデレラは夢心地だった)

[p.9 に番外編]

El “Rakontaro Genĝi”, 11-a jarcento

## 源氏物語 第 15 帖 蓬生

# Yomogifu – La Ruindomo (1)

eljapanigis belmonto

### 1) sinjorinoj ĝemas pri Genĝi

Kiam *Genĝi* loĝis en malproksima rifuĝloko *Suma* solece kun larmoj, kvazaŭ falantaj salgutoj de marherboj, multaj sinjorinoj en la Urbo plorĝemis, sopirante lin. Inter ili tiuj, kiuj havis ekonomian bazon, povis sopiri lin nur en ĉagreno. *Violo\** en *Nideŭvin* vivis kviete, kaj ofte komunikis, kiel ili vivtenas, reciproke. Ŝi sendis al li vestojn laŭ sezonoj dum lia severa vivado, de post kiam li forlasis la oficialan postenon. Pro la donacoj li estis konsolita. Sed ankaŭ ekzistis tiuj amatinoj, kiuj ne estis konataj publike, kvankam amataj de li, kiuj nur aŭdis pri li preskaŭ ne koncerne, ke li foriris de la Urbo; sed fakte multaj el ili rompis siajn kaŝitajn korojn.

### 2) domo de Kartamo estas ruina

*Kartamo\*\**, la filino de la princo *Fitati*, vivtenis tre maltrankvile sub neniuj zorganto, post la forpaso de la patro. Baldaŭ venis la feliĉo, ke *Genĝi* vizitis ŝin, kaj kio kutimiĝis. Tio ne estis la granda favoro por li, havanta prosperan gloron, sed nur elliko de lia efemera amo al ŝi. Sed lia favoro estis al ŝi tre abunda, pro ŝia malriĉa vivnivelo, kvazaŭ steloj sur la firmamento speguliĝas sur surfaco de akvo en baseno. Dum en tiu favoro *Genĝi* rifuĝis al *Suma*, evitante la politikan konfuzon. Li verŝajne forgesis virinojn ne profunde amatajn, sekve ne zorgis ilin, post lia evakuo al la malproksima regiono. En la restanta riĉeco ŝi apenaŭ vivis en plorado, sed laŭ paso de monatoj kaj jaroj ŝi fariĝis mizera kaj soleca.

La maljunaj ĉambelanoj bedaŭris.

“Ho, kiel domaĝa sorto! Kiam *Genĝi* vizitis

藻塩(もしほ)たれつつわびたまひしころほひ、都にも、さまざま思(おぼ)し嘆く人多かりしを、さてもわが御身の抛りどころあるは、一方(ひとかた)の思ひこそ苦しげなりしか、二条の上などものどやかにて、旅の御住み処(か)をもおぼつかなからず聞こえ通ひたまひつつ、位を去りたまへる仮の御よそひをも、竹の子の世のうき節を、時々につけてあつかひきこえたまふに、慰めたまひけむ、なかなか、その数と人にも知られず、立ち別れたまひしほどの御ありさまをもよそのことに思ひやりたまふ人々の、下(した)の心碎きたまふたぐひ多かり。



常陸の宮の君は、父親王(みこ)の亡(う)せたまひにしなごりに、また思ひあつかふ人もなき御身にていみじう心細げなりしを、思ひかけぬ御事の出で来て、とぶらひきこえたまふこと絶えざりしを、いかめしき御勢(いきほひ)にこそ、事にもあらず、はかなきほどの御情ばかりと思したりしかど、待ち受けたまふ袂(たもと)の狭(せば)きに、大空の星の光を盪(たらし)の水に映したる心地して、過ぎしたまひしほどに、かかる世の騒ぎ出で来て、なべての世うく思し乱れし紛れに、わざと深からぬ方(かた)の心ざしはうち忘れたるやうにて、遠くおはしましにし後(のち)、ふりはへてしもえ尋ねきこえたまはず。そのなごりに、しばしば泣く泣くも過ぎしたまひしを、年月経(ふ)るままに、あはれにさびしき御ありさまなり。

古き女ばらなどは、

「いでや、いと口惜しき御宿世なりけり。おぼえ

nin, ni miris, ĉu dio aŭ Budho momente aperis antaŭ ni, kaj dankis al li, admirante, ke tia ligiĝo povas subite aperi. Sed ĝenerala politika afero blokis nin, kio portis al ni mizeran kordoloron sen ia ajn asisto.”

Antaŭe, ili kutimiĝis al mizera soleca loĝado, sed spertinte la subitan prosperon dum jaroj, ili veĝemis nunan vivadon ne tolereble. Tiam, aŭdinte la vizitadon de *Genĝi*, kapablaj ĉambelaninoj kolektiĝis al ŝi per si mem, sed nun ili disiĝis unu post alia. Kelkaj el maljunaj mortis, kaj malmultiĝis ankaŭ servistinoj altrangaj kaj malaj, laŭ fluo de monatoj kaj tagoj.

### 3) *Kartamo vivtenas sin en ruindomo*

La domtereno de Kartamo ruiniĝis post la forpaso de la patro princo, kaj ekloĝis multe da vulpoj. En la terure ombrita arbaro kutime ululis strigoj matene kaj vespere. Antaŭe, ili kaŝis sin, sentante movon de homoj, sed nun eĉ abomenaj aperaĵoj eksieĝis sian lokon laŭplaĉe, samkiel spiritoj de arboj, kaj soleco plu profundiĝis senkompare. Restantaj malmultaj ĉambelaninoj konsilis al ŝi.

“Neniun alian rimedon ni havas! La provincestroj ŝatas konstrui sian domon dande, kaj rimarkis arbaron en ĉi tiu palaco. Ili petas laŭokaze peri sian deziron, ke vi forvendu ĉi tiun domon al ili. Bonvolu konsenti tiun deziron, kaj transloĝiĝi en nova domo, ne tiel terura. Ni, restantaj, ne povas toleri plu.”

Sed ŝi rifuzis, dirante:

“Kiel freneze! Kiel oni mokridos nin en famo! Kial mi povos forviŝi la restantan postsignon de mia patro, eĉ el la preskaŭ ruiniĝinta domo? Tio estas mia unu sola konsolo.”

Ŝi ploris, kaj tute ne konsideris pri la forvendo. (daŭrigota)

ず神仏(かみほとけ)の現はれたまへらむやうなりし御心ばへに、かかるよすがも人は出でおはするものなりけりと、あり難う見たてまつりしを、おほかたの世の事と言ひながら、また頼む方なき御ありさまこそ悲しけれ」

と、つぶやき嘆く。さる方にありつきたりしあなたの年ごろは、言ふかひなきさびしさに目馴れて過ぎしたまふを、なかなかすこし世づきてならひにける年月に、いとたへがたく思ひ嘆くべし。すこしもさてありぬべき人々は、おのづから参りつきてありしを、みな次々に従ひて行き散りぬ。女ばらの命たへぬもありて、月日に従ひては、上下(かみしも)人数(ひとかず)少なくなりゆく。

もとより荒れたりし宮の内、いとど狐の住み処(か)になりて、うとましうけ遠き木立に、梟(ふくろふ)の声を朝夕に耳馴らしつつ、人げにこそさやうのものもせかれて影隠しけれ、木霊(こたま)など、けしからぬ物ども、ところ得て、やうやう形をあらはし、ものわびしき事のみ数知らぬに、まれまれ残りてさぶらふ人は、

「いとわりなし。この受領(ずりゃう)どもの、おもしろき家造り好むが、この宮の木立を心につけて、放ちたまはせてむやと、ほとりにつきて、案内し申さするを、さやうにせさせたまひて、いとかうもの恐ろしからぬ御住まひに、思し移ろはなむ。立ちとまりさぶらふ人も、いとたへがたし」  
など聞こゆれど、

「あないみじや。人の聞き思はむこともあり。生ける世に、しかなごりなきわざはいかがせむ。かく恐ろしげに荒れはてぬれど、親の御影とまりたる心地する古き住み処(か)と思ふに、慰みてこそあれ」と、うち泣きつつ、思しもかけず。

(続く)

\*Violo: la edzino de *Genĝi* 紫の上    \*\*Kartamo: iama amato de *Genĝi* 末摘花

・日本語本文は、大島本 [青表紙本系] (小学館・日本古典文学全集, 1972) による

・固有名詞表記は、11世紀の推定音価にもとづく。エスペラントにない w は v で表記した。

## Jam krepusko kun Esperanto (1)

EGAWA Harukuni (Ŭakajama)

Matene, sunradietoj tra kurteno ekpenetris en la dormĉambron de *Haruo*. Momente li vekigis pro la lumeto al sia vizaĝo kaj tiris al si la brakhorloĝon apud la kapkuseno. Tiam *Haruo* eksciis duondorme, ke la horo estas ankoraŭ pli frua ol lia kutima ellitiĝo, kaj samtempe lian cerbon trapasis la memoro, ke hodiaŭ estas la memorinda tago pro lia ora jubileo de geedziĝo. Dum vagado inter dormeto kaj realo en la lito, li nevole falis en la mondon de sonĝoj ĵus interrompitaj. Ili rakontis pri liaj travivaĵoj amaraj sed karmemoraj.

*Haruo* naskiĝis en la hejmo de kamparano ĉe la suburbo de *Ŭakajama*. En la infanaĝo li devis vole-nevole labori sur kampo tuj post reveno el la elementa lernejo, ĉar preskaŭ ĉiuj el maturaĝaj viroj en lia vilaĝo estis varbitaj al la armeo por la dua mondmilito. Tie kaj tie multaj el maljunaj viroj, virinoj kaj eĉ infanoj devis plugadi kampon ankaŭ por la rizo devige kvotigita de la ŝtato al kamparanoj, kaj ili ŝvitis preskaŭ en malsato ankaŭ por sia mizera manĝaĵo ĉiutaga kiel rizkaĉo kaj peklita rafano, kiuj apenaŭ vivtenadis ilin. Sed rikoltotempe ilin helpis por tiu laborado la lernantoj devige mobilizitaj el ĉiu mezlernejo. Eĉ ilin en tia kamparo usonaj ĉasaviadiloj ofte atakis mitrale tuj antaŭ la militfino. Intertempe, en la 9-a de julio en la jaro 1945, cent ok bombaviadiloj nomataj B-29 flambombadis la urbon *Ŭakajama*. En tiu destinita vespero, tuj post alarma sireno, *Haruo* fuĝis kun siaj familianoj al la rivero fluanta ĉirkaŭ la rando de la urbo. Tie jam estis plenplenaj de la fuĝantoj. De sur la digo *Haruo* povis rigardi la kastelon *Ŭakajama*. Baldaŭ lumraketoj, okulfrape helaj en nokta mallumo, estis pafitaj el B-29 super la kastelon, de kio ĝi estis klare reliefigita kiel la lasta figuro

antaŭ la fuĝantoj. Tuj poste sekvis bombado nur cele al la kastelo, la simbolo de la urbanoj. Kia teruriga flamleviĝo post bombaj tondroj! *Haruo* tremis pro tiu simbola figuro bombardite falanta kun flamego, kaj poste li estis alnajlita al la sekvantaj lumegoj pro pelmele bombardite ekbrulantaj domoj tie kaj ĉi tie en la urbo. Finfine la tuta urbo ŝanĝis sin en unu grandan flamon kvazaŭ trapikontan la ĉielon pro tiel sennombre falantaj flambomboj kiel ruĝa pluvo. Rigardu tiel helan nokton en maro da flamoj, preskaŭ kiel dumtagan! Kia senkompata inferigo far de usona atakado kun triumfo sen kontraŭatako de japana armeo! Abrupte sur la lokon apud *Haruo* ankaŭ ekfalas flambomboj. Li blinde puŝbatiĝis kun la fuĝantoj por eskapi pli frue el la kaoso apud morto. Sed vane, antaŭ la sendistinga bombado *Haruo* perdis la vojon por forkuri al pli sekura loko. Tra tia neimagebla terurego erupciis duonfrenezaj plorkrioj el la fuĝantoj, kiujn la flamego persekutis senkompatate. Pro la atakado la urbo plene ruiniĝis dum nur unu nokto. *Haruo* mirakle postvivis. Matene, domaj kadavroj sub la ekleviĝanta suno montris sin tie kaj ĉi tie klinitaj kun karbigitaj kolonoj ankoraŭ subbrulantaj. Okcent tunoj da brulbomboj el B-29 forbruligis dudek mil kvarcent domojn, mortigis mil cent homojn kaj vundis al kvar mil kvarcent civiluloj la korpajn nur dum unu nokto. En tiu mizera realo *Haruo* trovis en sia infana koro la militon nenio alia ol tia stulteco, ke ĝi ne nur murdas civilulojn, sed detruas vivmedion kaj kulturajn heredaĵojn, kiujn la homaro delonge konservadis.

Venkite en la milito, japanoj reprenis pacan vivon el la detruo. La okupanta armeo el usonaj soldatoj venis ankaŭ al *Ŭakajama*. *Haruo* vidis ilin triumfe rajdantaj sur ĵipo, kiuj ankaŭ vizitis lian vilaĝon por rigore elserĉi, ĉu tie ankoraŭ restas kaŝitaj armiloj aŭ ne. Tiam li eksciis unuafoje, ke la lingvo parolata de ili estas alia, kaj la koloro de ilia haŭto estas



diferenca de la japana. Tamen tia diferenco kaj timigis kaj interesis la infanon *Haruo*. Baldaŭ la soldatoj ofte aperis en lia vilaĝo kaj disĵetis kukojn el sia ĵipo donace al infanoj, laŭte alvoĉante “Haloo!” Tiam *Haruo* divenis la vorton “haloo” taŭga por akiri kukojn. Do poste, malsata li provis alvoki al ili per “Haloo!”, kiam la ĵipo kun ili veturis preter li. Kiel atendite, kukojn ili ĵetis al lia loko. Tiam *Haruo* sentis, kiel agrable estas utiligi alian lingvon.

De kiam *Haruo* fariĝis mezlernejano, li frekventis la privatan lernejon de angla lingvo, nomatan “Edeno”, post lecionoj en mezlernejo. Sed tedi lin tie la lernado de angla lingvo nur por enira ekzameno de supera lernejo. La lernejo staris tuj apud la amastombejo, kiu estas vasta kun punktitaĵoj. Antaŭ vesperiĝo, multaj paroj el usona soldato kaj japana putino aperis en la tombejo ĉiutage krom pluvado. La ĝuinda panoramo el ĝia unua etaĝo meritis la nomon de Edeno. Tiutempe ne estis rendevua hotelo por sekrete amori kiel nun. Do, tie estis plej oportuna loko al ili por amori sinkaŝante inter tomoŝtonoj. Revenvoje de tiu Edeno en iu vespera krepusko, *Haruo* kuraĝis ĵeti ŝtonon al la tomoŝtonoj kriante “Haloo!”. Ĵetita ŝtono klakis saltante de unu tomoŝtono al aliaj. De la klakoj kelkaj paroj surprizite

ekstaris duonnude sen vestoj sur malsupra korpo. La bildo tra vespera nebulo ŝokis lin pro ties groteskeco de la degenero. Tia petola ago verŝajne ekĝermis el lia antipatio kontraŭ la okupantoj, kiuj arogante uzas sian lingvon kaj flirtas kun japanaj virinoj.

Unu tagon post la somerferioj de mezlernejo *Haruo* ekkonis internacie egalan, facilan kaj do memlerneblan lingvon “Esperanto” pere de sia matematika instruisto, kiu jam komencis korespondi kun franco malgraŭ mallonga memlernado dum la ferioj. Ravis lin Esperanto pro ties transnacieco kun alta humaneco kaj egale komunikebla lingvo kun diversaj nekonatoj en la mondo. Post mallonga kurso de la instruisto, *Haruo* povis iel skribi leteron en Esperanto al la samaĝa fraŭlino nomata Jindra en Ĉeĥio. Jam de tiam li volonte gvidis la elementan kurson de Esperanto, kiu disvolviĝis jaron post jaro en diversaj lokoj. Komence lia klasĉambro estis plena de la kursanoj, eble pro ties rareco aŭ ilia aspiro nur al tiel nomata internacia lingvo Esperanto. Sed de post alta kreskado de la japana ekonomio fariĝis des pli malfacile varbi tiel multe da kursanoj kiel antaŭe. Do, ĉe li kreskis nur senpacienca kaj bedaŭro pro ankoraŭ nematura frukto malgraŭ lia klopodo. (daŭrigota)

語尾なし単語 番外編

## 数詞について

800号にちなんで(?)数詞について。

数詞をアルファベットで書く時、どこで単語を区切るかで迷うことがあります。たとえば“789”をどう書くか。答えは *sepcent okdek naŭ* です。つまり、桁ごとに区切れればいいのです。

それなら、「一万」はどうでしょうか。桁ごとに区切るなら *dekmil* でいいはずですが、これは間違いで、実は *dek mil* と分けて書きます。

たとえば「二十三万四千」という数をアルファベットで書いてみると、*ducent tridek kvar mil*

となります。mil が 234 個あると考えてください。ducent tridek kvar という数全体が mil にかかっているのです、*kvarmil* とひとつの単語にしないのです。

結論として、桁ごとに単語を分けるけれど、mil は桁に入らないと考えてもいいでしょう。

ただ、ザメンホフの用例にも、少数ながら *dek-kvinmil* とか *centmil* のように一語にしている例はあります。

なお、100 は *unucent* とは言わず、単に *cent* というのが普通です。dek も mil も同じです。日本語でも、「一十」「一百」とは言いません。(「一千」はありますが)

## Gratulon pro la 800-a numero

SUZUKI Keiichiro

(Prezidanto de Japana Esperanto-Instituto)

Gratulon pro la 800-a numero de La Movado! La Movado estis eldonita unue en marto de 1951 kaj daŭre dum pli ol 66 jaroj fervore legita kaj legata de esperantistoj ne nur en Okcidenta Japanio sed ankaŭ en la tuta Japanio. Mi tre estimas ĝian longedaŭran eldonadon kun riĉegaj artikoloj pri movado, lernado, praktikado, kulturo ktp. de Esperanto.

Mi esperas, ke ĝi prospere atingos la numeron 1000-an kaj pluan.

### 地域の活動の上に立って

星田 淳 (北海道エスペラント連盟)

800 号ですか。創刊以来 66 年、おめでとうございます。

長い歴史のある JEI と違って (関西という) 地域の活動の上に立って per, por kaj pri エスペラント運動 (=movado) の記事を載せていた。La Movado という名はまさに「体をあらわして」います。

地方の組織ではその必要性はわかっても機関誌を出し続けるには苦勞します (人材・能力不足?)。HEL (北海道エスペラント連盟) でも何度か発行が途絶えたとき「共同機関誌 La Movado に合流したらどうか」という意見が出たことが 2 回あったと思います。結局「機関誌は自分のものでなくちゃ」となったようですが。

以前の HEL 機関誌担当で「目標は La Movado」と言う人がいました、私も同感ですがなかなか目標には近づけない。今後も長く我々の目標として輝いてください。

## Gratulon pro la 800a eldono

Hori Jasuo

(Ĝenerala sekretario de Kantoo-Esperanto-Ligo)

Gratulon pro la 800a eldono de la revuo “La Movado”. Ĝi estis, estas kaj estos eterne granda motoro de la Esperanto-movado en Japanio.

2017.10

## Ĉu samideano, ĉu rivalo?

SIBAYAMA Zyun'iti

(ĉefredaktoro de La Revuo Orienta)

Gratulon pro la 800-a n-ro de La Movado (LM) mi sendas pro du kialoj.

### 1. kiel eksredaktanto

Inter la jaroj 1972 kaj 1981, mi estis unu el la redaktantoj de LM. Tiam manuskripto estis skribita mane sur “folio kun antaŭpresitaj kradoj por ĉiu japana litero”, por horizontale 25 literoj oble 12 linioj, t.e. 300 literoj (\*); okaze de alfabeto, 1 krado tenu 2 literojn. Jam oni ne akuzu min pro preskripto, ke por LM ni uzis speciale aranĝitajn manuskriptfoliojn de la Japana Esperanto-Vortaro. Tiam s-ro MIYAMOTO Masao, la ĉefo de LM, estis komisiita de Japana Esperanto Instituto (JEI) pri tiu vortaro, kaj li havis abundon da manuskriptfolioj por la vortaro.

Tiujn jarojn mi sentis rivalecon kontraŭ La Revuo Orienta (RO) de JEI. Mi eĉ nun opinias, ke la raporto pri ĉiujara Japana Esperanto-Kongreso tiam kvalite superis tiun sur RO. LM formis teamon por raportoj diversajn flankojn de la Kongreso, kaj asignis personon, kiu fine resumis la erojn kiel kompleta manuskripto.

### 2. kiel redaktanto de amika organo

Ĉu diri ankoraŭ rivala? Mi nun redaktas RO en JEI. Nun la redakto de ambaŭ organoj estas multe elektronikigita. Kompostado estas farata per programo *InDesign* (\*2). Sed tio estas en la posta fazo, kaj la komenca fazo de redaktado estas plani kaj kolekti artikolojn. En tio mi daŭre vidas bonan tradicion en LM. Nome, ne nur primovadajn artikolojn LM kolektas, kiel aludas la gazetnomo, sed ankaŭ literaturajn kaj kulturajn (kaj foje muzikajn) artikolojn. Kaj mi sentas samideanan solidarecon kun vi.

(\*1) 300 字詰め原稿用紙

(\*2) 編集ソフトの「インデザイン」

## 祝 モバード誌 800 号発行

國井 兵太郎（東北エスペラント連盟会長）

モバード誌 800 号の発行に心からお祝い申し上げます。言語の学習や普及を目的としている私どもにとって、機関誌の発行は運動の基礎とも言えるもので、関西地方から多くの優れた運動家が輩出しているのも、その結果と言えると思います。

私の住んでいる山形の機関誌 La Stelo de Jama-gato も、細やかながら 400 号を超えて発行しました。エスペラント語の発展のため、さらには国際的な相互理解のために今後も運動と機関誌の発行に努力して参りたいと思います。

[p.2 より]

（浮田政治さん、中道民広さんと私）で景福宮と非武装地帯の見学をホテルで紹介してもらって、日本語ガイドの案内で見て回った。

ソウル市内の観光は同室の佐々泰弘さんと適宜行った。宗廟、昌慶宮などを見て回り、日本大使館前（大使館は移転しているが）の、かの有名な少女像も見つけて写真に収めた。私は UK に参加したとき、Kongresa libro の表紙の写真を見るとこれはどこにあるのか、行ってみたいくなる。今回の表紙の写真はユニークな建物で東大門（トンデムン）の近くにあることを知り、佐々さんと探しに行った。確かに超モダンで大きな建物であった。東大門デザインプラザ（DDP）という。2020 年の東京オリンピックのための新国立競技場（のちに白紙撤回）を設計したザハ・ハディッド氏の設計である。時間がなかったので、中はあまり見ていないが、1 日いても遊べそうな感じであった。

### 閉会式

閉会式では各種の表彰が行われたが、詳細は省く。来年の UK はポルトガルのリスボンと決まっていたが、新たに 2019 年はフィンランドのラハティ、2020 年はカナダのモントリオールで行うと発表された。

## 峰 芳隆さん追悼

### La Movado の印刷時からの交流

碓 大福（エスペラント普及会）

関西エスペラント連盟の機関誌“La Movado”が、以前は京都府亀岡市の大本にある天声社で印刷していたので、峰さんは毎月、同誌の校正のために亀岡にきておられた。昼食時に、エスペラントやエスペラント界について、とりとめのない話をしていたのである。とくに横浜での世界エスペラント大会の少し前からは、よく話していた。

峰さんはいろいろなことをよく調べられていた。私はそのころ、大本から初めて世界エスペラント大会（1925 年のジュネーブ）に参加し、大会後は、パリで大本の布教活動をした西村光月氏とその事務所の所在地について調べていた。

峰さんから「芹沢光治良の作品の中に西村光月氏のことが書かれている」と教えていただいた。芹沢氏の『人間の運命』に「フランスに渡る白山丸がインド洋を航海していた時であった。… 四十歳をすぎた中学校の体操の先生のような、素朴な体格のいい人であった。ジュネーブのエスペラント世界大会に出席する西村ですと、自己紹介して…」。「総本部はそこから近いボージロー街の安下宿の三階にあった。…エスペラントの『オオモト』がうず高く積んであったが、その上に神棚をつつて、小さな祠が安置してあった。」と書かれていた。

その他にも歴史的なことを教えていただいた。

峰さんの体調がよくないことを本人から伺った。また、治療方法についても話されていた。それで、用件があつて電話しても、「体調はどうですか」とはなるべく聞かないことにして、「興味ある原稿を書いてください。よい仕事を期待しています」と申し上げていた。

姫路の方から「峰さんから『もう電話にも出ることができないし、メールで返信することもできないので、メールを送らないでください』という連絡がありました」と聞いていた。興味ある原稿をもっと書いてくれると思っていました。

### 峰 芳隆さんをしのぶ会

日時 : 10 月 1 日 (日) 午後 2 時より 4 時まで

会場 : 神戸市青少年会館 5 階 研修室 (JR 三ノ宮駅東出口下車で徒歩 3 分、神戸市中央区役所の隣)

連絡先: 関西エスペラント連盟

※平服でおいでください

## 峰 芳隆さん追悼

### Brila disĉiplo de *MIYAMOTO Masao*

Ulrich LINS

Konantoj de la japana movado bone scias, ke KLEG, do la esperantistoj en la regiono *Kansai* kun la centroj *Oosaka* kaj *Kioto*, ĉiam ludis grandan rolon en ĝi. Inter ili elstaras *MIYAMOTO Masao*. Pro lia unika personeco ne povis troviĝi perfekta posteulo; pluraj dividis lian heredaĵon. Sed inter liaj daŭrigintoj sendube elstaran lokon havas *MINE Yositaka*. Simile kiel *MIYAMOTO*, li dum multaj jaroj zorgis pri la organizaj aferoj de KLEG, eldonis aŭ redaktis revuojn kaj librojn kaj intense korespondis kun eksterlandaj esperantistoj.

Ne estas facile elekti el liaj aktivadoj iujn, kiujn oni nomu plej gravaj. Certe aparte notinda estis lia kompilo de la verkaro de *Vasilij EROŝENKO*. Tiu dokumento de skrupulo kunigas ĉiujn plej gravajn verkojn de la blinda poeto delonge ŝatata en Japanio kaj iom post iom malkovrita ankaŭ en Ĉinio, Rusio kaj Ukrainio. Min ankaŭ multe impresis la revuo „Riveroj” (1993–1999), kiu daŭrigis la tradicion de aliaj kulturaj revuoj el *Kansai* kiel „Prometeo” kaj „l’omnibuso”. En la samnoma eldonejo kaj en la eldonejo „La Kritikanto” s-ro *MINE* aperigis verkojn interalie de *MIYAMOTO* kaj *Vilmos BENCZIK*. Dum pluraj jaroj li estis ankaŭ la respondeculo de Japana Esperanta Librokooperativo. Pro tiuj laboroj li en 2008 estis distingita de Japana Esperanto-Instituto per la Premio *Ossaka*. *MINE Yositaka* krome kontribuis al la aperigo de la impona Biografia leksikono de la Esperanto-movado en Japanio. Tre helpa kontaktulo kaj fidinda konsilanto li estis por la brita japanologo *Ian RAPLEY*, kiu en 2013 en Oksfordo doktoriĝis per disertacio pri la japana Esperanto-movado.

Kiam ajn mi bezonis helpon pri detaloj el la historio, *MINE Yositaka* tuj disponigis al mi sian scion. Kun plezuro mi memoras nian pli ol 2017.10

dudekjaran kunlaboron en la juĝkomisiono de Fondaĵo *Grabowski*. La decidojn pri indaj premiitoj multe influis lia intima scio de la Esperanta literaturo kaj lia tutmondeca sinteno. En 2012 li transdonis sian taskon al *SHI Chengtai*. De tiam, pro sia malsano, li devis ĉiam pli redukti sian aktivadon, sed tute retiriĝi li ne volis kaj povis, kvankam, dum li mem luktis kontraŭ sia malsano, li suferis teruran sortobaton: la fruan forpason de sia filino. Esperanto iugrade helpis vivteni lin. Tion mi persone iom observis fine de novembro 2010, kiam mi kun s-ro *Syōzi Nobuyuki* vizitis lin en lia hejmo en *Takasago*. Poste mi plurfoje demandis lin pri la stato de la riparlaboroj en la kastelo *Himezi*, ĉefe kiel preteksto por nova vizito al li. Estas korŝire konsciiĝi, ke *MINE Yositaka* nun ne plu vivas.

### 九州からやりとり

荻野明 (福岡県)

S-ro 峰の訃報には驚きました。九州なので、日常的にはおつきあいがあったわけではありませんが、元支局長(?)として、氏との思い出を少し書いてみました。

S-ro 峰のお名前だけは存じ上げていたものの、はっきりとした形でお目にかかることができたのは、旅行からの帰り道、一度は見ておかなくてはと、はじめて KLEG 事務所に立ち寄ったときでした。阪急電車を曾根駅で降りて、電話をかけると、ちょうどその日の当直が峰氏だったのです。峰氏おすすめの本を紹介してもらい、2冊ほど求めたことを覚えています。

有名な英英辞典の Esperanto の項のまちがいを指摘した拙稿を La Movado に載せてもらったことがあります (2006 年 11 月号 p.11) が、エスペラントの発表年についてのまちがいのある旧版と、まちがいが訂正された新版の該当個所の写しを送ってほしいとの氏からの要請を受け、図書館で複写してお送りしたこともありました。

それから各地の大会で何回かお会いしました。わたくしが九州連盟の事務所を預かっておりました時には、職務に関することについてのやりとりが主になりますが、氏からはいろいろと指導、助言をいただいたことは忘れ難く思います。

## 峰さんの仕事ぶり

ドイ ヒロカズ (横浜市)

峰さんがガンだ、と伺った日からずいぶんの月日が過ぎた。あるとき、訪ねても良いかと電話したら「会いたくない」といわれた。「私と話すと身が入り疲れるから」とのことだった。「いつ悪い知らせが」と気にならない時はなかったが、いつの頃から峰さんはまだまだ大丈夫だ、と思いついでいた節があったことに訃報を聞いてから気がついた。

KLEGの当直を辞めたこと、いくつか担っていた職務を一つ一つ後継者を見つけて渡していったこと、関西大会を地元の姫路で開いたこと、ご自宅の本をさっぱりと整理をしたことなどなど、自分を制御しつつ最後まで気力を維持してこられた姿勢は、見習いたくともとても私などの及ぶところではなかった。

出張の折、ご自宅に泊めていただいたこともあり、東京で勤務されていたときには我が家にもお招きしたことがあったはずだ。学生時代から親しくお付き合いはしていたが、不思議と個人的な話をした記憶が残っていない。例えばほぼエスペラント運動の話であり、本の話であった。教えられることばかりだった。あるとき今読んでいる本の話におよんだ。La Movadoへの書評執筆を依頼されたがお断りした。理由は、かねがね La Movado 誌は関西地区等の機関誌であり、北海道や、関東在住の人が記事を書いているのを私は批判していた。同じ書くなら、地元横浜の機関誌である La Tamtamo 誌を重視したかった。

しかし、妻が『地球時代のことば エスペラント』の再販を依頼され、書き上げた原稿を送った後、峰さんとのやりとりを見せて貰ったことがある。詳細な校正が返送されてきていた。さらには様々な観点からの記述案がメールで追加して送られてきていた。比嘉康文の『我が身は炎となりて』の校正を私も比嘉さんから頼まれたことがあった。自分としてはそれなりに責を果たしたつもりでいたが、この本のエピローグに「峰芳隆さんにはエスペラントについてたびたび質問し、そのたびに知識や助言をいただいた。書き直した原稿を三回も読んでいただき、感謝に堪えない」とあった。他の方々も自著で峰さんにお世話になったことに言及されるのを見るにつけ、いかに丁寧な仕事をされたかが窺われる。峰さんの仕事ぶりは丁寧の一語ではとうてい表せない

が、これらのことを今思うと、書評を断らずに書いていれば、峰さんから直接薫陶を受けることができたのにと今では残念に思う。

## ザメンホフ祭に来てくれて賢治の話を

北川昭二 (福井県)

学生時代に峰さんに初めてお会いしたとき鉄鋼短大と聞いて耳慣れない大学だなどと思った印象は残っているが、その頃どういう付き合いをしたかはもう思い出せない。

大学卒業後、私は郷里の福井県へ戻り KLEG とは疎遠になったが、峰さんは宮本正男さんの元で薫陶を受けられたようで、すごく立派なエスペラントになられた。エスペラント文学に造詣も深く出版関係で活躍し、播磨地方でのエスペラント会の育成や、その後は La Movado の編集など縦横無尽の活躍をされた。

私が特に深くお付き合いすることになったのは、その La Movado の編集をされていた時で、彼から頼まれてゲラ刷りの校正をするようになってからである。私の「校正」はちょっと独特で、植字ミスを指摘するだけでなく、内容や企画の立て方や見出しの書き方にまで「文句を言ったり」するものだが、その基本姿勢を彼は受け入れてくれた。もちろん、「意見」の採否には一切文句を言わなかったので半分以上は却下だったと思うが、私も編集に参加しているような気分になり、毎月未楽しいひとときを過ごすことが出来た。ある号で「La Movado の校正は楽しく自分に役に立つ」という記事を書いたのは、このお手伝いでいかに得をしたかの感謝の念を表したかったからである。奈良での関西大会で私が講演した話の内容をほぼそのまま載せてくれたのも自分の足跡を残せたようで本当にうれしかった。

2008年に峰さんに福井エスペラント会のザメンホフ祭に来てもらって「イーハトーブとは」と題し宮沢賢治のことについて講演をしてもらったことがあった。この会は福井市の山奥の萌叡(ほうえい)塾で行われたものだったが、峰さんは奥様を連れて来られ萌叡塾で一泊された。その時にはもう「病気」はわかっていたのではないかと思われるが、あの博学が福井のコメンツァントの皆さんの心に響いたことは間違いない。その時のメンバーはほぼ、今も月2日の例会での学習を続けている。

## 峰 芳隆さん追悼

### 『動植物名リスト (仮称)』の完成誓う

野村 忠綱 (熊本県)

峰芳隆さんの訃報に触れ、初めて峰さんが私より8歳から9歳若いということを知った。かなり以前に、お体の調子が悪いということは知らされていたが、私は峰さんとの別れがこんなに早く訪れるとは夢にも思っていなかった。今は言いようのない後悔の念が消えない。それは、峰さんが存命の内に『日本語エスペラント動植物名リスト (仮称)』を完成できなかったからである。

私と峰さんとの関係が強まったのは『リスト』の編集を通じてである。早く完成しなくてはならないとは思っていたが、私の編集方針の恣意的な変更のため、峰さんには迷惑を掛けっぱなしであった。

やっと、採録語は広辞苑に採用されているのを主とする、学名をエスペラント表記にする場合は、PIVの表記に従う、といったことを最終決定したのは、峰さんに3度程、原稿を送付した後、現在の修正に入る前であった。

それから3年ぐらいたって、その作業を進めているのであるが、それが進まない。

それは私の怠惰のせいであることはよく認識しているのだが、それを修正して、能率を上げることができない。しかし、とにかく私の認知症が進んで、今かろうじて保っている認知水準がこれ以上悪化して、何を入力しているかさえ判断できなくなる前に出版まで持っていかなければ、峰さんが私に与えてくださった長年の支援に応えることができないであろう。易きに就こうとする老残の心理に鞭打って一日でも早い『リスト』の完成を誓うのみである。

### 楽しい作文教室 (74) 成績

14人の方から応募がありました。( )内は留意事項です。

うん、良いね : T.Ku (②主語), Ĉielo, Ivajo  
良いね : ヒー坊 (komptilo), CA (komptilo),  
ikona, Eiko (televiĝis), Orion, AG (①enは不要),  
M.H.  
もうひといき : Drako (綴り), festo (①si), alfa  
(diris veni), nori (①時制)

### 峰さんから学ぶべきこと

寺島 俊穂 (大阪府)

峰芳隆さんと私とのつきあいは、編集者と執筆者との関係に限られますが、峰さんの逝去によってKLEGにとって大きな精神的支柱が失われたように感じました。というのも、峰さんは、KLEGの中心的存在だった宮本正男さんの精神を、最もよく受け継いで仕事をしてきた活動家の一人だったからです。

峰さんの編集者としての仕事は、文学作品からエスペラント運動史まで多岐にわたりますが、峰さん自身は、エロシェンコ、宮沢賢治を研究し、運動論よりもエスペラント文学への関心のほうが強かったように思います。21歳のときに本格的に学び始めたエスペラントが峰さんにとっての大学であり、「神戸新聞」(2013年12月2日朝刊)のインタビュー記事のなかで語っているように、「社会を変えられるのは文化だ」という宮本さんのことばが導きになったのでしょうか。

また、峰さんは、資料収集家であり、独自のネットワークづくりをしていました。幅広くアンテナを張り、私のように政治学の研究と並行してエスペラントに携わっている者にも、専門に近い本だけでなくエスペラント教材の書評まで依頼し、いろいろなジャンルの本を熟読する機会を提供してくれました。峰さんは、「編集者の仕事はストレスがたまる」と言っていましたが、それでもずっと最期まで編集の仕事に情熱を傾けたのは、立派でした。『日本エスペラント運動人名事典』や『関西エスペラント連盟65年史』の監修や編集でも、徹底した調査を惜しみませんでした。エスペラント運動にとって組織づくりが重要なことを認識していた点も、宮本さんと共通しています。峰さんは、宮本さん同様、率直な方でしたが、仕事を成し遂げるために必要な柔軟さやバランス感覚も持ち合わせていました。

私たちにとって重要なのは、峰さんの仕事や人となりを継承して、エスペラント文化の質を高めていくことでしょう。峰さんが示したのは、エスペラントには人生をとおして関わる価値があるということだったと思うからです。

## 横浜 UK でのこと

清水 孝一（埼玉県）

半世紀を超える付き合いをさせて頂いた峰さんとの思い出は尽きません。ここでは、私の心を打った彼の人柄の一端を披露しましょう。

2007年の横浜での世界エスペラント大会の折の一夜、私は付き合いのあったドイツ人の Ulrich Lins、ユーゴスラビア出身で UEA の元事務総長の Simo Milojevic、そして峰さんの三人を横浜市内のあるバーへ招待しました。そこはカラオケや生演奏の音楽が楽しめる店でした。入店してしばらくすると、峰さんは私にこう言いました。「この世界大会には大ベテランの小西岳さんや江川治邦さんが体調不良のために参加できませんでした。彼らも Lins や Simo とこんなふうに歓談を楽しめたら、どんなにか嬉しいことだろうに。」

私は峰さんのその言葉に、彼はいつも他人のことを慮る人情家なんだなあと深く感じ入ったものです。彼が亡くなって、私はあらためて、あの横浜 UK の一夜での彼の言葉を思い出した次第です。

昨年のある日、峰さんから電話がありました。「やあ、清水さんが夢に出てきたので、声を聞きたくなくてね……」——私の目に涙が浮かびました。

峰さん、どうか安らかに！これからは、あの世で、ザメンホフやエロシェンコや宮本正男さんたちと、心いくまで歓談してください！

### Kurantaj Vortoj

一線を超える：transiri nepermesitan linion

恋人つなぎ：mano en mano kun interkuptlitaj fingroj（指の間に指を絡める）

プラトニックラブ：platona amo（本来は理想への愛）

不倫：malmoralo; devojiĝo; devio

準天頂衛星：kvazaŭ-zenita satelito（GPS を補完して日本近傍で高精度 GPS を実現する予定）

全地球測位システム：tuttera pozicitra sistemo（GPS。人工衛星からの電波で位置を測定）

超ひも理論・超弦理論：super-korda teorio（宇宙は 10 次元だとする万物の理論）

M 理論：M-teorio（5 種類の超弦理論を統合する 11 次元の理論）

### Mikspoto

（当欄は敬称略）

★渡辺克義著『物語 ポーランドの歴史』（中公新書、2017年）の「まえがき」iv 頁に「ポーランド生まれの偉人は日本でもよく知られている人が意外に多い。＜中略＞国際補助語エスペラントについて聞いたことがある人なら、創案者のザメンホフが帝政ロシア支配下のポーランドの都市ビャウイストクの出身者であることを知っているかもしれない」とある。

[←山崎 基弘]

★『現代詩手帖』8月号（思潮社）の「江原光太と〈詩人のデモ行進〉」（岡和田晃）にベトナム戦争中の1965年 北海道の詩人有志によって発行された『北海道＝ヴェトナム詩集』の中の作品「この手を」（更科源蔵）がエスペラント訳されてベトナムに送られ Dao Anh Kha によってベトナム語に訳されて文芸誌“VAN GHE”（文芸）に載ったことなどが紹介されている。

[←星田 淳]

★8月6日付『山形新聞』に「長井出身の工藤さん、斎藤秀一の悲劇描く 太平洋戦争前に反戦訴えた言語研究者」と題して、工藤美知尋（70）が、言語研究者の斎藤秀一（ひでかつ）に焦点を当てた『特高に奪われた青春』を出版したと。

[←後藤 齊]

★8月15日付の『朝日新聞』大阪本社版朝刊に『特高に奪われた青春 エスペランティスト斎藤秀一の悲劇』（芙蓉書房出版新刊、1800円 [税別]）の広告が掲載された。

[←西 千寿子ほか]

★8月12日（土）12時42分～12時45分のNHK総合「100万人の花は咲く」は、英語、エスペラント語、フランス語、ロシア語の4つの言語で歌われた復興支援ソング「花は咲く～マルチリンガルバージョン」を紹介。第102回日本エスペラント大会（宮城）での合唱も。

[←後藤 齊]

★佐藤優著『牙を研げ』（講談社現代新書）に、エスペラントとJEIに関する記述がある。[←三澤 一弘]

★森まゆみ著『暗い時代の人々』（亜紀書房、2017年5月刊行）の山川菊栄の章に「山川菊栄の姉、佐々城（ささき）松栄の随筆集がお茶の水女子大学の女性文庫にあり、エスペラント語の普及に努め昭和8年50位でなくなった」とある。

[←的場 勝英]

★8月26日付『赤旗』の「読者の広場」欄に「エスペラント 写真で発見！」と川合正義さんが投稿。掲載写真中の看板にエスペラントと。

[←相川 節子]



## 「竹崎睦子基金」の活用募集

名古屋市を中心に永年エスペラント運動に献身された竹崎睦子さんが、2016年の第64回東海エスペラント大会の前日急逝されました。故人のエスペラントに対する情熱をよく知るご遺族から、「東海地方のエスペラント運動のためにお使ください」と遺産の一部が寄贈されたものを、「竹崎睦子基金」として管理・活用することにしました。下記の通り、基金を活用したい団体・個人はお申し出ください。

### 記

**対象：**東海地方のエスペラントの運動に寄与する事業（\*）を行う団体および個人。

**応募要領：**事業の時期、目的、内容、予算概要、東海地方のエスペラント運動に寄与する理由などを付記して管理者に申し出る。

**支援決定通知：**申し出の受領から1か月以内に、可否および支援金額などを管理者から通知するとともに公表する。

**事後の報告義務：**事業の終了後3か月以内に事業経緯と内容を報告する（管理者がエスペラント運動誌などに公表することを妨げないこと）。

（\*）事業とは、例えば次のようなものをいう。

エスペラントの大会、講習会、広報活動、出版および外国からのエスペランチストの招致、外国で行われるエスペラント大会などへの参加、エスペラントのための旅行など。

### 支援第1号

**対象：**2017年の第65回東海エスペラント大会実行委員会（講師への謝礼、参加費、宿泊費と横断幕製作費を2017年5月26日に金36,950円を支援した）

**理由：**講師を東海地方以外から招き、大会を盛り上げるとともに、参加費を廉価にして参加しやすくすることにより、東海地方の運動の活性化に寄与

**管理者：**黒柳 吉隆 [salikojp@ybb.ne.jp](mailto:salikojp@ybb.ne.jp)

後藤 好美 [yosimi51@mf.ccnw.ne.jp](mailto:yosimi51@mf.ccnw.ne.jp)

山田 義 [yamadapiano@mac.com](mailto:yamadapiano@mac.com)

## 京都ラジオカフェとの出会い

久保田 百合（大阪府）

みなさん、「京都三条ラジオカフェ」って知っていますか。市民が創るNPO放送局で、京都市中京区と近辺地域向けにサービスを展開しています。

7月末にラジオカフェにて、タイでのエスペラント運動について話をさせていただきました。三条寺町を西へ入ったビルの3階にスタジオはあります。

京都エスペラント会の野田淳子さん、富田成美さん、光川澄子さんがそれぞれ進行・インタビュアー・計時係と番組作りの役割分担をされていました。タイに移住することになった経緯から、当時大学生だったWarut Bunprasertとの出会い、自宅のエスペラント例会の様子などを紹介しました。防音・録音設備が整ったスタジオに入り、ヘッドホンをつけマイクを目の前にするとやや緊張しましたが、周りの皆さんのアドバイスもあって本番は楽しんで話すことができました。エスペラントを全く知らない人にも理解できるよう、できるだけ省略語や特別な用語を使わないよう注意しました。

「エスペラントって何？」という6分間の番組で、エスペラントの魅力を分かりやすく伝えることをねらいに放送されています（第2・4水曜日13:04～13:10）。「放送利用料」を負担することで、市民が自由なテーマで放送できるこのような機会は大変貴重なものであるとともに、今後も継続してほしいです。

番組制作者の一人、光川さんは「『エスペラント』という言葉聞いたことがあるという人が増えるよう、放送を通じて一つでも多くエスペラントの種を蒔きたい」と話されていたのが印象的でした。地域の特性や資源を生かしたこのような活動がさらに広がることを期待したいです。

なお、番組はいつでもパソコン・スマートフォンで聞くこともできます（<http://radiocafe.jp/201603001/>）。皆さん一度HPを覗いてみてください。





## JEI の Somera Kurso

ブラジルの Barboza 教授によるエスペラント教授法やブラジルの教育に関する講座が、8月5日早稲田のエスペラント会館で行われた。午後は「モラルは退化しているか」などをテーマにエスペラント語でのディベート練習。留学中のフランス、ベトナム、韓国の学生も参加して、にぎやかな会となった。

来年、リスボンで世界エスペラント大会が開かれるポルトガルに関連して、「ブラジルのポルトガル語とポルトガルの言葉は話し言葉では、ほとんど通じないと聞いてびっくり！エスペラント語で話してやっと分かり合える」とポルトガル人のエスペランティストとの交流について紹介した。[←北川 郁子]

### 第 91 回九州エスペラント大会

9月23日(土・祝)～24日(日)  
長崎カトリックセンター(長崎市)

### 第 18 回中国四国エスペラント大会

9月30日(土)、10月1日(日)  
国民宿舎「良寛荘」(倉敷市)

### 楽しい作文教室 12月号課題(10月20日締切)

- ①冷蔵庫のドアを閉めます。
- ②百獣の王が協議会を招集します。
- ③1頭以外全動物が来ます。足りないのは誰？
- ④象です。まだ冷蔵庫の中にいます。
- ⑤あなたの行動の帰結を自覚しなさい。

(ヒント) 招集する kunvoki、協議会 konferenco、当然の帰結 konsekvenco. manki, konscii, ago を調べましょう。この課題は前号の続きです。日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811 塚本 猛

[電子メール] c\_tak@esperanto.ne.jp

(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

## 第 2 回日韓共同開催エスペラント大会に 千田稔さん

第 105 回日本エスペラント大会は、日韓共同開催大会として、2018年10月12日(金)13日(土)14日(日)の3日間にわたって開かれる。会場は奈良市登大路町の奈良県文化会館。

9月2日、2回目の大会実行委員会が関西エスペラント連盟の事務所で開かれ、大会プログラムや大会後遠足について相談した。

講演者として、奈良県立図書情報館館長千田稔さんが決まっている。第 58 回関西エスペラント大会(2010年)の講演「平城京と遣唐使」が好評だった。

大会後遠足の訪問先は、天理市の石上(いそのかみ)神宮や、明日香村の飛鳥寺が候補にあがっている。飛鳥寺は韓国の修徳寺と「姉妹寺院」の関係にあり、また石上神宮には百濟から伝わった国宝「七支刀」が所蔵されている。日韓の交流にふさわしい。

「他の観光客が少ない早朝に奈良公園散策を」「大縄跳びができないだろうか」「カラオケをいっしょに楽しむ機会も」「若い人がお金をかけずに楽しめる大会にしたい」などの提案も出された。

### 訃報: Marjorie Boulton さん

8月30日逝去。1924年生、享年93歳。“Zamenhof, aŭtoro de Esperanto” や “Faktoj kaj Fantazioj” など、英語とエスペラントで詩・戯曲・小説・エッセーの多くの著作がある。1967年から Akademio de Esperanto 会員。猫好きで有名だった。

### KLEG

#### 事務局だより

★日本郵便(株)からゆうメール料金(特別)の値上げの申し入れがありました。会員、読者の皆さまへの書籍の送料を値上げせざるをえなくなりそうです。具体的な金額が決まり次第、お知らせします。

★今年も KLEG 合同ザメンホフ祭は開催しないことになりましたので、各地で準備をお願いします。

★ザメンホフ祭で購入したい書籍・CDがありましたら、9月末までに事務局にご連絡ください。取り寄せます。

★今年 800 号となる La Movado 誌は合併号もなく、毎月、年 12 回発行されている機関誌です。まわりの方に購読をお勧めください。

# Vortkruca enigmo

Redakcio

Vicigu adekvate 7 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun steleto. Tiam vi akiros vorton, kiu rilatas al ĉi tiu numero.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de oktobro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.

**Horizontale:** 14. Lando apud Filipinoj.(x) 16.~ilo flugas super nuboj.(x) 17. Gramatika finaĵo de verbo.(x) 18. Amikeco de esperantistoj estas mondo~a.(x) 19. La Morta Maro estas malsupra ol la mara ~o.(x) 21. Malo de okcidento.(x) 22. En basbalo oni ~as la pilkon per ~ilo.(x) 23. Sufikso signifanta naskiton.(x) 24. La komitato ~is lin kiel prezidanton.(x) 26. Mon~oj estas faritaj el metalo.(x) 27. Unu el la plej valoraj metaloj.(x) 28. Birdo simila al kanario.(x) 30. ~donu la libron, kiun mi pruntis al vi.(x) 32. Prepozicio.(x) 33. Komence de la kongreso okazis ~a inaŭguro.(x) 34. La fulmo kaj tondro tim~is min.(x) 35. Grupo da artistoj de teatraĵo, aŭ taĉmento da soldatoj.(x) 37. Filo de frato aŭ fratino.(x) 38. Greno ĝenerala en Eŭropo.(x) 40. Tokio estas nomo de ~o.(x) 41. "Monda ~o" de piedpilko en 2018 okazos en Rusio.(x) 43. La ĵokeo alligis ~on sur la ĉevalon.(x) 44. Interne de.(x) 45. Sufikso signifanta membron.(x) 46. Sufikso sen difinita signifo.(x) 47. Plejofta, vaste kutima.(x) 49. Kiam akto finiĝas,la ~o falas.(x) 51. Arbo, uzata en la novjaraj ornamaĵoj en Japanio.(x) 52. Tago kaj ~o.(x) 53. Ujo uzata en kuirejo.(x) 54. *Donald* estas la ~o de *Melania*.(x) 55. Mallongigo de Unuiĝintaj Nacioj.(x) 56. Kverko kaj platano estas ~oj.(x) 57. Ni ~u kaj esperu!(x) 59. Sufikso.(x) 60. Prapatro de porko.(x) 63. Purigi per akvo.(x) 64. Participo prezenca.(x) 66. Bastono maldika, uzata por diversaj celoj.(x) 70. Studentoj vizitadas kaj tie studas.(x) 74. ♪ Tagiĝo, tagiĝo ~as en rond'...(x) 76. Forlaso de vokalo en poemo.(x) 77. "~eco, 2017.10

egaleco kaj frateco" estis la slogano de la franca revolucio. (x) 79. Artikolo.(x) 80. Duoble kvar.(x) 81. Konstruaĵo por loĝi aŭ kunveni. 83. Mara akvo enhavas ~on.(x) 85. Meblo por sidi. 86. Subjunkcio.(x) 87. Pronomo.(x) 88. Zebro havas ~ojn sur la korpo.(x)

**Vertikale:** 1. La urbo, kie okazos la 103-a Universala Kongreso.(x) 2. La ĉefurbo de Turkio.(x) 3. Ŝtofo estas ~a kaj ŝtono estas mal~a.(x) 4. Du~o de horo estas 30 minutoj. (x) 5. Tago post ĵaŭdo.(x) 6. Koreio apartenas al ~a kontinento.(x) 7. Jen kvizo: ~u, kio estas en la kesto.(x) 8. La ansero demetis oran ~on. (x) 9. Antikva urbo en Japanio.(x) 10. Regnestro de malnova Rusio.(x) 11. Doni bonan ekzemplon por imiti la agon.(x) 12. Truego, tra kiu iras veturiloj aŭ homoj.(x) 13. Suno, luno kaj steloj estas ~oj.(x) 15. Kiu tago estas via naskiĝ~o?(x) 16. Malsano kaŭzita de troa reago de imuno-sistemo.(x) 20. Prepozicio.(x) 23. En ia maniero.(x) 25. Subjunkcio.(x) 28. Vivanta en naturo sen zorgo de homoj.(x) 29. Sufikso montranta sekson.(x) 31. Ilo por pafi sagon.(x) 32. Restmono.(x) 33. Malhumida, senakva.(x) 34. Lando apud Britio.(x) 35. Kolorigi ŝtofon.(x) 36. Nigra kaj malmola ligno uzata por meblo. (x) 37. Havanta nur nomon, sen posedo de efektiva povo.(x) 38. Planedo, sur kiu ni vivas. (x) 39. Ĝenerale ŝatata trinkaĵo.(x) 41. Figuro kun formo de homo.(x) 42. Besto kun longaj oreloj.(x) 43. Prepozicio signifanta mankon. (x) 45. Esperanto estas ~efarita lingvo.(x) 48. Malstrikta. 50. Sur ~on oni projekciis la bildon. (x) 53. Ĉu vi ~as paroli Esperanton?(x) 54.

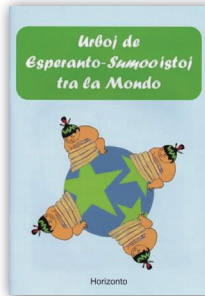
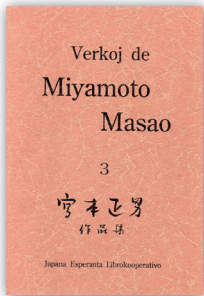
Sufikso signifanta lokon.(x) 58. Tuka bendo por ŝirmi vundon.(x) 59. Efike uzebla.(x) 61. ~intaj tagoj neniam revenas.(x) 62. Grupo de superaj oficiroj.(x) 64. Japanio ~is Koreion en 1910.(x) 65. En Japanio estas kvar ~oj.(x) 66. Direkti veturilon.(x) 67. Deklari ion certa aŭ vera.(x) 68. Prefikso.(x) 69. Kiel ~as via laboro?(x) 71. Unu ~o taŭgas pli ol dek aŭdoj. (x) 72. Ritmo kaj ~o estas gravaj en poemo.(x) 73. Sufikso.(x) 75. Vojo kun arboj vicaj.(x) 78. Malofta.(x) 82. Gramatika finaĵo de verbo.(x) 84. Pronomo vira.

La solvo al la aŭgusta enigmo: DENTISTO  
La ĝustan solvon donis 16 legantoj:

武藤たつこ、  
水渡篤子、前藤寛、  
平井俊佐子、  
西千寿子、  
濱田國貞、  
馬場祝栄、  
久保田俱視、  
にしりのりこ、  
中村文雄、  
CA、TADA、  
Orion、Sayuri、  
Grebo、Kacu

M	I	K	R	O	S	K	O	P							
O	R	I	E	N	T			M	I						
R		A		D	R	I	N	K							
G	O	L	F			I	L	I							
A	L			I	N	K			B	O					
Ü				I	N		T	R	U						
		S	T	A	R			I	S	T					
O	K			N			E	Ĉ		A					
S	I	N	C	E	R				E	G					

1	L	A		3	M	O	V	A	D	O		8	O	K	C	E	N	T	A	13
14	*		15									16							17	
18					19					20			21							
22				23			24			25							26	*		
27				28			29			30			31			32				
			33	*					34			35							36	
	37						38			39					40					
41				42		43				44				45						
46	*			47						48		49						50		
51									52											
			53				54				55			56						
57		58	*			59	*		60	61			62							
	63				64			65				66		67					68	
69				70			71		72		73									
74	75				76						77	*					78			
	79			80			81			82				83					84	
85					86					87				88						



### ★ 800号記念特別割引販売 ★

下記の図書割引販売します(ほぼ半額)。対象は会員と読者。なお、通常の会員割引は適用されません。送料は実費。期間は10月20日申し込み分まで。

- 宮本正男作品集3 3000円→1500円  
 宮本正男作品集4 3000円→1500円  
 エスペラント体験(梅棹忠夫) 750円→350円  
 近代日本における国際語思想の展開 100円→50円  
 現代人のエスペラント秋・冬 300円→150円  
 La 15a marto 1928 (小林多喜二) 500円→250円  
 Gimnastiko por cerbo (辰巳博) 400円→200円  
 La gimnazio (対訳「高等学校」) 500円→250円  
 Gooŝ la 'Ĉelisto (宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」) 1500円→750円  
 Ivan la malsaĝulo 900円→450円  
 Nokto de la Galaksia Fervojo (宮沢賢治「銀河鉄道の夜」) 1000円→500円  
 Notoj pri la delto (デルタの記) 400円→200円  
 Postmilita Japana Antologio (戦後文学選集) 1500円→750円  
 La revizoro (ザメンホフ訳) 100円→50円  
 Vage tra la dimensioj (小西岳:S F集) 700円→350円

Vespera gruo (木下順二「夕鶴」) 300円→150円

### ★ 峰芳隆の業績 ★

日本文学にあらわれたエスペラント 800円  
 宮本正男著(峰編)。大江健三郎等の作品にみるエスペラントを論じる。著作目録など併載。

Vivo kaj verkoj de Miyamoto Masao 800円  
 没後10周年記念追悼文集+書誌。年譜(峰編)。Auld、Benczik、Lins、Silferらが寄稿。

### ★ 新刊・新着 ★

Urboj de E-Sumooistoj tra la Mondo 500円  
 エスペラント力士の住む町-読書のたのしみを広めるエスペラント大相撲(堀泰雄が主催)に参加する世界各地の「力士」30人が「わが町」を紹介。大判の鮮やかなカラー刷り。A4判、32p。

Dek noveloj de Maupassant 1300円  
 モーパッサンの短編集(N. Lecomte訳)。「雨傘」「十一号室」など10篇。A5判、82p。

La faraono (新版) 2100円  
 Kabeの名訳プルス『ファラオ』の新版(3冊セット)。読みやすい版組。A5判、259+316+260p。

Glumarko Lisbono 210円  
 第103回世界エスペラント大会(リスボン)のシンボルマークをあしらったシール。

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

### 編集ノート

- ★今月は800号記念で、増ページ、一部カラー印刷にしました。本当は、普段から写真などをカラーにしたいところです。
- ★今月号から、源氏物語「蓬生(よもぎう)」の連載が始まりました。belmontoさんよろしくお願ひします。
- ★9月号p.12「平和を願うCD」の記事で、野田淳子さんの連絡先が誤りでした。電話・ファクスは075-751-7067、メールアドレスはjunko21@mwa.biglobe.ne.jpが正しい。申し訳ありません。(相川節子)

発行所:ラ・モバード社 編集:相川節子 発行人:染川隆俊 定価280円 送料62円 1年3800円 送料共本  
 局:一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204  
 電話(06)6841-1928 ファクス専用(06)6841-1955 電子メール:esperanto@kleg.jp  
 振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ: http://kleg.jp  
 九州支局:九州エスペラント連盟内 818-0105 福岡県太宰府市都府楼南2-8-7 武藤たつこ方 電話(092)923-2877  
 中国四国支局:中国四国エスペラント連盟内 771-0371 徳島県鳴門市北灘町櫛木字観音面14-1 木谷奉子方 電話(088)688-1098